

キュリオ

# QRIO サイエンスプログラム in ブラジル 開催 (科学技術体験教室)

日本ユネスコ協会連盟では、国内外の子どもたちに科学の楽しさと平和の尊さを伝えるために、ソニー株式会社の協力のもと「QRIO サイエンスプログラム」を実施しています。去る2月7日、9日にはブラジル・サンパウロのマグノ学校（UNESCO 協同学校）とダンテ・アリゲリ学校で開催され、小学生から高校生まで約800名の生徒が参加しました。

QRIO はポルトガル語での挨拶やサンバの踊りを披露し、生徒たちから拍手喝采を浴びました。



小学生の部では、QRIO を動かす電池に焦点をあて、炭、ペーパータオル、アルミホイルと食塩水を用いて電池を作成。お手製の炭電池で豆電球が点灯すると「高度な技術がなくても簡単に電池が作れるなんて知らなかった」と皆大喜び。「今日作った炭電池でどんなものが動かせるの?」「ペーパータオルの役割は何?」など次々に質問が飛び出しました。

また、中高生の部では、「電池の開発」や「特許担当」のソニー社員が「電池の基礎からリチウムイオン電池の話」、「発明とは何か」の講義を行いました。新しいものを開発する楽しさや、開発担当、製造担当が協力して製品を作る楽しさなど職業観も披露し、「大学進学を前に進路を考えていたが、プログラムに参加して、科学技術の分野に大きな関心を持った」と感想を述べた生徒もいました。

「QRIO が日本ユネスコ協会連盟のサイエンスメッセンジャーとして平和の大切さを伝えるために世界を回っているのは良いことだと思う。自分も将来、世界の平和に貢献したい」と述べる子どももいて、受け入れ校の理科教諭は、「シンプルな素材で簡単にできる炭電池の実験は今後、学校授業での導入も検討したい」と大感激。南米初の「QRIO サイエンスプログラム」は成功裏に終了しました。

